



2017年5月11日

各 位

会社名 株式会社高松コンストラクショングループ  
代表者名 代表取締役社長 吉 武 宣 彦  
(コード番号 1762 東証第一部)  
問合せ先 常務執行役員グループ統括本部長 井 筒 廣 之  
(TEL 06-6303-8101)

## 中期経営計画「NC2020」(2018年3月期～2020年3月期) 策定に関するお知らせ

当社グループはこのたび、2018年3月期を初年度とする3か年の中期経営計画「TRY! NEXT CENTURY 2020」(2018年3月期～2020年3月期)を策定いたしましたので、お知らせいたします。

当社グループは、2014年に策定した中期経営計画「New Light 2017」に取り組み、その最終年度となる2017年3月期の連結業績は、売上高こそ目標値を若干下回ったものの、営業利益は目標額90億円に対し実績は129億円となるなど、収益面で計画を大幅に上回る実績を計上することができました。

今回の中期経営計画の期間中の環境認識としましては、建設投資額全般については高水準の投資額の継続が想定されるとともに、大都市圏の賃貸マンションの建設需要も堅調が継続すると予想しております。

当社グループは2017年10月に創業100周年を迎えます。その記念すべき100周年目をスタート年度とする新しい中期経営計画「TRY! NEXT CENTURY 2020」におきましては、当グループの中核会社のひとつである高松建設グループは、好調を持続する首都圏の土地有効活用を中心に事業拡大を図り、グループ全体の成長を牽引する計画となっています。もう一方の中核会社である青木あすなろ建設グループは、堅実な成長・高利益率の持続を目指す計画です。

高松コンストラクショングループ全体としては、「チャレンジ2680」をキーワードに、2020年3月期の売上高2,680億円を目指し、「スペシャリティ18α」のもと、特徴ある当社グループ事業会社18社のさらなる成長および積極的なM&Aの実施により、事業の拡大をはかります。そして「クオリティ150」を掲げ、高品質で高効率な施工を維持・向上しつつ、2020年3月期に営業利益150億円の達成を目指します。また、経営基盤強化策として、高松コンストラクショングループ単体が核となり、グループ力の最大化、人材育成の推進、グループガバナンスの向上、資本政策の推進などをグループ全体にわたって推進してまいります。

当社グループは、本計画の実現に向けて役職員一丸となって取り組んでゆく所存です。株主様をはじめ、ご関係の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上

本資料に掲載されております計画、予測または見通しなどは将来に関する事項は本書面の発表日現在における当社の戦略、目標、前提または仮定に基づいており、実際の業績は、様々な要素により、記載の計画、予測または見通しなどとは異なる結果となる可能性があります。

# 中期経営計画 「TRY! NEXT CENTURY 2020」

---

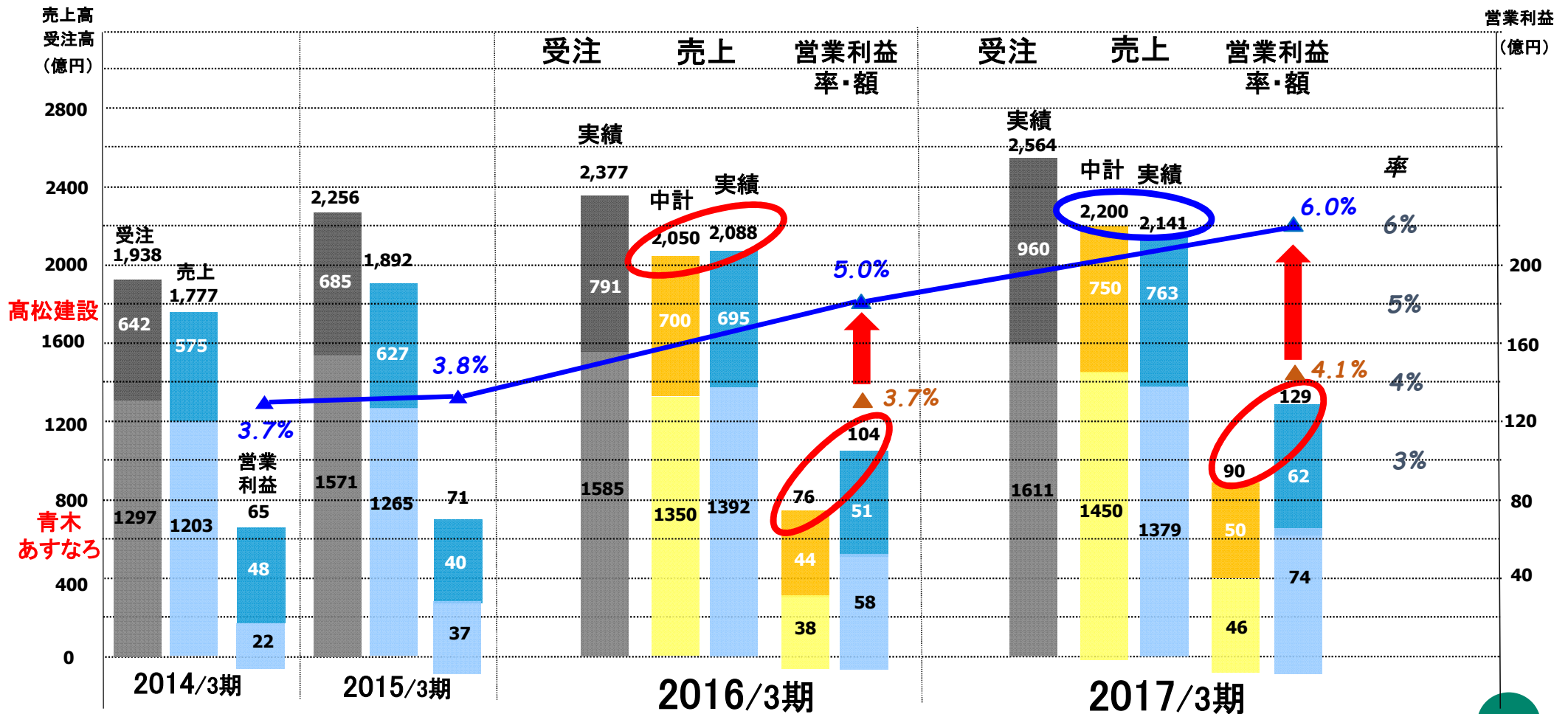
2017年5月11日

株式会社高松コンストラクショングループ

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

# 1. 前回中期経営計画「New Light 2017」の総括

1. 前回の中期経営計画は、創業100周年である2017年に向け、2014年に「New Light 2017」計画としてまとめられ、2015/3期決算時に開示しました。
2. 中計最終年度の2017/3期は、売上高は中計にわずかに及ばなかったものの、営業利益は39億円のオーバーとなりました。
3. 2014/3期からの年平均伸び率は、受注9.5%、売上高6.4%、営業利益25.6%を達成できました。



## 2. 2020年3月期に向けての市場環境認識と 高松コンストラクショングループの成長イメージ

### 環境認識

#### プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円を上回る水準を3年は持続すると見ます。
- 東名阪の世帯数は高水準を持続し、新築住宅着工も好調持続を予想します。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見ます。

#### マイナス要因

- 国内建設投資額は次期中計終了年度である2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴い原価は上昇トレンドに。
- 賃貸マンションの需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしばむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。

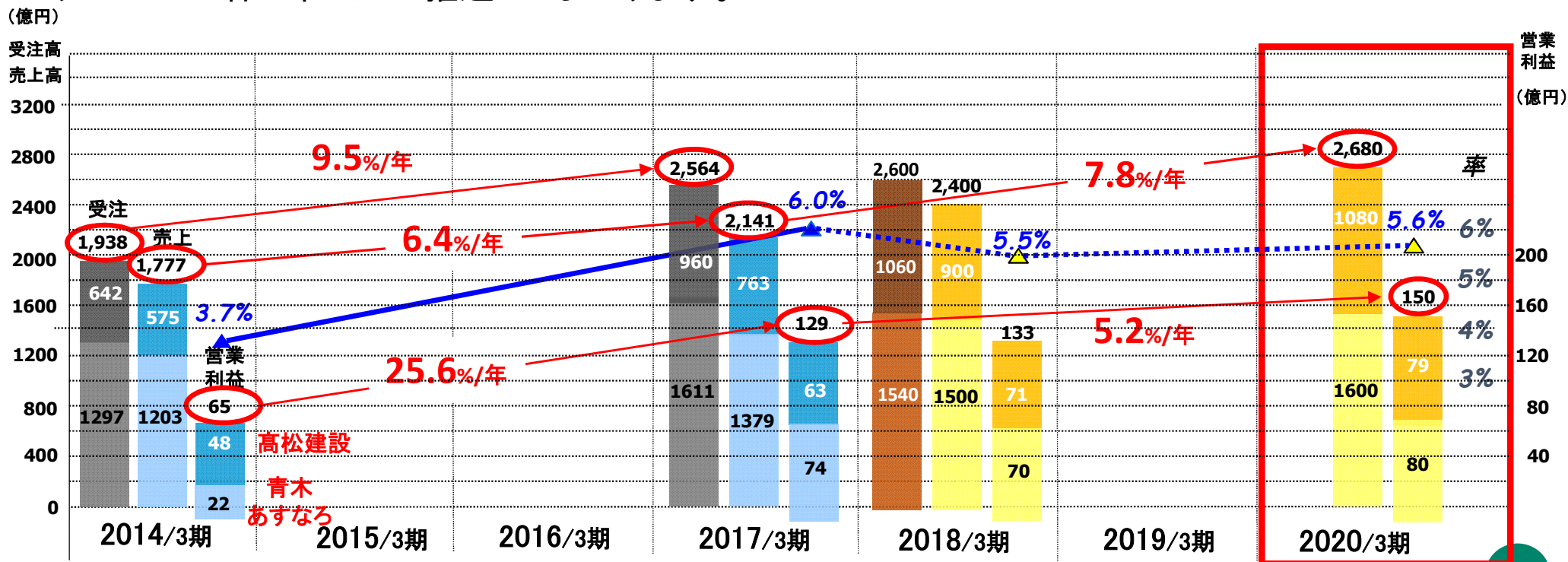
### 高松コンストラクショングループとしての成長イメージ

1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指します。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指します。
3. 上記が実現できる経営基盤を整備します。

### 3. 中計「TRY! NEXT CENTURY 2020」の概要

高松コンストラクショングループ全体として、

1. 「チャレンジ2680」をキーワードに、2020年3月期の売上高2,680億円を達成し、7.8%の年成長率を目指します。
2. 「スペシャリティ18α」のもと、特徴ある当社グループ事業会社18社のさらなる成長と、積極的なM&Aの実施により、事業の拡大をはかります。
3. そして「クオリティ150」を掲げ、高品質で高効率な施工を維持・向上しつつ、2020年3月期に営業利益150億円を達成し、5.6%の営業利益率と共に5.2%の年成長率を目指します。
4. さらに、経営基盤強化策として、高松コンストラクショングループ単体が核となり、グループ力の最大化、人材育成の推進、グループガバナンスの向上、資本政策の推進などをグループ全体にわたって推進してまいります。





## 4. グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ

1. 高松建設は、高松コンストラクショングループの母体となった中核会社。
2. 高松建設は、お客様に徹底的に寄り添ったビジネスモデルで確固たる地位を確立。
  - ① 土地有効活用ビジネスの先駆的存在（1960年代より確立）
  - ② 富裕層や法人企業への提案型営業（税務・法務・土地購入・建築・賃貸・維持管理・修繕でのトータル提案）
  - ③ 駅前などの好立地にランドマーク的マンションを建設、高入居率・高賃料物件を提供
3. 建築累積棟数は、首都圏1,320棟、近畿・名古屋圏3,180棟、合計4,500棟の実績。
4. 2017/3期は、2期連続での増注・増収・増益を達成。
5. 近年は、物流施設や病院、工場などの大型受注も増加中。（DPL流山 I、千葉みなと病院、他）
6. 好調な首都圏エリアに営業攻勢をかけるため、人員等の体制を強化。
7. 高松建設・高松テクノサービス（リフォーム・大規模修繕）・高松エステート（不動産管理）が三位一体となってグループ全体を牽引し、2020/3期の売上高1,080億円を目指します。



千葉みなと病院



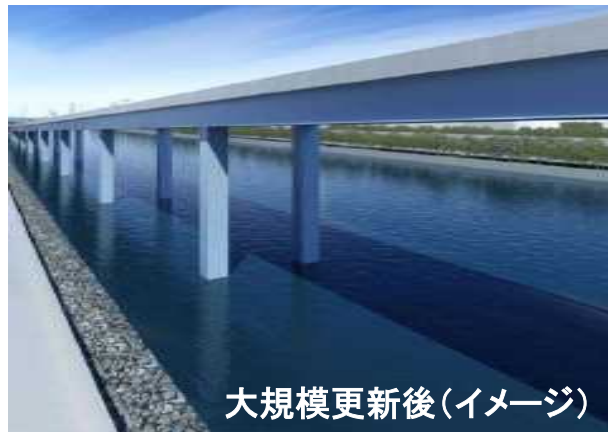
完成イメージ

DPL流山 I



## 5. グループビジョンと中期経営方針：青木あすなる建設グループ

1. 青木あすなる建設グループは、東証一部上場企業の青木あすなる建設を中心とした9社で構成。
2. 青木あすなる建設単体での土木建築比率は受注高・売上高ともほぼ5:5。
3. 連結ベースでは、海洋土木に強みを持つみらい建設工業・青木マリン、法面保護等が得意な東興ジオテック、舗装工事のあすなる道路・新潟みらい建設、リノベーション工事のエムズ、遺跡発掘・調査の島田組・アクセスが揃い、土木：建築が7:3と土木が中心。
4. 研究開発にも注力。（「既設橋梁の耐震性向上技術の研究」「複合露出柱脚」「折り返しブレース」「無人化遠隔施工における操作ガイダンス」等）
5. 青木あすなる建設単体で合併以来最高の営業利益を確保するなど、青木あすなる連結で大幅な増益を確保し、2017/3期の高松コンストラクショングループの好決算に大いに貢献。2020/3期には売上高1,600億円を目指します。
6. i-コンストラクションへの積極的な対応による生産性向上と事業領域の拡大を目指します。



大規模更新後(イメージ)

首都高1号羽田線



完成イメージ

福島県警本部



UR浜見平団地

## 6. グループビジョンと中期経営方針：事業基盤戦略

1. 中計目標達成に向け、高松コンストラクション(単体)が「核」として基盤整備を推進します。
2. 高い成長レベルに合わせた採用の継続および事業・経営基盤整備を推進します。
3. 株主への利益還元を更に強化すべく、配当の見直しを推進します。

	基本戦略	目 標	重点施策、現状等
事業 基盤	グループ力の 最大化	事業ポートフォリオ最適化	・グループ全体を俯瞰した強み弱みを把握し、最適ポートフォリオを築く
		戦略的M&Aの推進	・「待ちのM&A」に加え、「攻めのM&A」を展開
		グループ経営管理の推進	・中計→年計→月次KPI会議のPDCAを強化
		対外発信力強化	・アナリスト/機関投資家/海外機関投資家とのミーティング・説明会の強化 ・主要な開示文書/HPの英語版作成と公表
経営 基盤	人材育成・ 人事諸制度改革	高水準の新卒採用継続	新卒採用：13/4=93名、14/4=142名、15/4=201名、16/4=161名、 <b>17/4=176名、18/4=240名、19/4=220名</b>
		働きやすい環境の整備	・働き方改革に合わせた諸制度の再検討
		人材育成	・教育研修制度の整備・拡充
	グループ ガバナンス	リスク管理力の強化	・内部監査室・法務室の機能強化
		危機対応力アップ	・社員安否確認/危機対応IRの強化
	資本政策	配当性向重視	・16/3期=21.1%→17/3期=23.5%。 ・ <b>18/3期は記念配当含め26.2%を予定。</b> ・ <b>今後とも配当性向は25%以上を継続。</b>



# 7. 国内建設投資額推移と高松コンストラクショングループの歩みと展望

1. アベノミクス以降の当社グループの過去トレンドに沿った成長を継続する計画となっています。
2. 引き続き建設市場シェアでの漸増を目指しています。
3. 高成長を志向する高松建設(株)は、売上高も2020/3期には青木あすなろ建設(株)に肉薄する計画。

